

吸収量の算定方法に関する資料

吸収量は、Jブルークレジット申請手引き記載の式(2)を用いることで求めた。

以下に算定結果の詳細を示す。

1) 湿重量

各海域の代表地点における対照海藻種(ワカメ)の質重量を、Jブルークレジット申請手引き記載(p31)の式より求めた。

湿重量(kgWW/m²)=0.0673×e^(0.7658×被度階級)

| | |
|---------------------------|----------|
| 津屋崎地区 | 被度階級 = 4 |
| 質重量(kgWW/m ²) | 1.4389 |
| 福間地区 | 被度階級 = 5 |
| 質重量(kgWW/m ²) | 3.101 |

各海域の藻場面積から本申請における単位面積あたりのワカメの湿重量は津屋崎地区で 14.4t/ha、福間地区で 31.0t/ha となった。

2) 含水率

・含水率については、可能な限り近海において採取されたワカメの既存文献値 90% (調査場所: 徳島県沿岸域, 海草・海藻藻場の CO2 貯留量算定ガイドブック, 水産研究・教育機構, 令和 5 年 11 月) を使用した。

3) 炭素含有率

炭素含有率については、可能な限り近海において採取されたワカメの既存文献値 30.1% (調査場所: 広島県沿岸域, 吉田ら: 広島湾に生育する海藻類の炭素・窒素含有量とその季節変化, 瀬戸内水研報, 3, 53-62, 2001) を使用した。

4) P/B 比

・P/B 比については、可能な限り近海において採取されたワカメの既存文献値 1.3 (調査場所: 岩手県沿岸域, 磯焼け対策ガイドライン, 水産庁, 令和 3 年 3 月) を使用した。

5) 残存率

・残存率については Jブルークレジット申請の手引きに記載の値 (残存値①=0.0493, 残存値②=0.0279) を用いた。

6) 生態系全体への変換係数

・生態系全体への変換係数については Jブルークレジット申請の手引きを参照し、1.5 とした。

7)吸収量の算定

- ・以上の係数の設定より、吸収量($\text{t-CO}_2/\text{年}$)は津屋崎地区で 0.45, 福間地区で 0.89 となった。